

えん どう まもる

遠藤守レポート

都議会公明党: 新宿区西新宿 2-8-1 TEL: 5320-7250 / FAX: 5388-1787 <http://endomamoru.com> お気軽にご意見・ご要望をお寄せください。

都美術館「公募展」は公平に

現在、都の平成19年度決算を審議する特別委員会が開かれていますが、その分科会で遠藤守が10月20日、24日の両日質問に立ちました。以下、概要をお知らせします。

荏原病院のサービス

○送迎バス、助産師外来が好評○

20日は、「病院経営本部」と「福祉保健局」所管の事業に関する質疑で、遠藤守は主に荏原病院の運営について質しました。特に、遠藤守の提案で実現した無料送迎バスと助産師外来（院内助産所）の現状については、**具体的成果※**が示され、都立病院時代にはなかった新たなサービスとして、利用者の支持を受けていることが明らかになりました。

※送迎バスの利用実績は、平成18年度1日当り約264人から平成19年度同約303人に拡大。

さらに関連して、この送迎バスは、現時点では、大岡山駅と荏原病院を結ぶワンルートしかないことから、路線の拡大を強く要請。検討にあたっては、大田区が来年度の運行開始に向け準備を進めているコミュニティバスとの接続を図ることも同時に訴えました。

一方24日は、「生活文化スポーツ局」所管の事業について質疑しましたが、遠藤守は東京都美術館の運営、とりわけ、美術団体が主催する「公募展」のあり方について質問しました。

平成19年1月に国立新美術館（港区六本木）ができるまで、公募展用の大規模会場は東京都美術館がわが国唯一でした。ただ、国立新美術館完成後も公募展会場の利用ニーズは依然として高く、2施設とも利用率はほぼ100%となっています。

○現在「継続団体」が9割使用○

都の説明では、昨年度の東京都美術館の利用団体数は254団体。ところが、これらの団体は、内規上、「継続使用団体」と「抽選使用団体」という2つのカテゴリーに分けられ、会場使用は、まず「継続使用団体」が優先的に確保した上で、余った枠を「抽選使用団体」が文字通り抽選で使用できるカラクリになっているのです。その結果、昨年度は、この「継続使用団体」が、公募展会場を9割以上の割合で使用していました。

24日の質疑ではこうした団体間の「格差」を指摘した上で、「（使用承認に当たっては）首都美術館にふさわしい一定の格式、レベルを尊重する一方、公立美術館として広く開かれていることも重要であり、リニューアル※を機に、ぜひ、公平・公正なルールづくりをすべきである」と訴え、都は、現在のあり方を見直す考えを明らかにしました。

※東京都美術館は建築以来32年を経過し設備面を中心に劣化が進んでいます。このため、平成22～23年度の2カ年にわたって全面休館して改修工事を行い、平成24年春にリニューアルオープン予定です。